

- 問1 日本の外交史をまとめた年表において、607年に小野妹子を遣隋使として派遣し大陸の制度を取り入れようとした政治家と、894年に唐の衰退などを理由に遣唐使の停止を建議した政治家の組み合わせとして正しいものを選びなさい。(2019年 福島県公立入試 類似)
1. 聖徳太子と菅原道真
  2. 聖徳太子と藤原道長
  3. 中臣鎌足と菅原道真
  4. 中臣鎌足と藤原道長
- 問2 11世紀後半から12世紀後半にかけて、現在の岩手県にある平泉を拠点とし、独自の行政と豊かな文化を築いて東北地方を広く支配した勢力の名称として正しいものを選びなさい。(2024年 静岡県公立入試 類似)
1. 奥州藤原氏
  2. 伊達氏
  3. 鎌倉北条氏
  4. 多賀城の国司
- 問3 平安時代後期、後三条天皇が設置した「記録荘園券文所」において、書類の不備がある荘園を没収し、土地の計量基準を統一しようとした政策を何と称しますか。(2022年 東京都公立入試 類似)
1. 延久の荘園整理令
  2. 地租改正
  3. 班田収授の法
  4. 太閤検地
- 問4 平安時代末期、白河上皇の邸宅跡からは当時の高度な文化を示す青磁などが発掘されています。このように、天皇が位を譲った後も「上皇」として自らの居所で政治の実権を握り、天皇に代わって政治を執り行う形態を何と呼びますか。(2024年 栃木県公立入試 類似)
1. 院政
  2. 摂関政治
  3. 武家政治
  4. 合議制
- 問5 白河天皇が1086年に天皇の位を退いた後も、上皇として政治の実権を握り続けた「院政」が成立した目的として、最も適切な説明はどれか、次の中から選びなさい。(2023年 香川県公立入試 類似)
1. 藤原氏による摂関政治の影響を排除し、皇室が自ら政治の主権を握るため
  2. 源氏や平氏といった武士の台頭を抑え、貴族のみによる合議制を復活させるため
  3. 遣唐使を廃止し、国風文化をさらに発展させるための新しい教育制度を作るため
  4. 鎌倉に幕府を開き、全国の守護や地頭を統制するための軍事的な基盤を作るため
- 問6 平安時代、藤原道長などの藤原北家が政治の実権を握るために用いた手法について、その内容を正しく説明しているものはどれですか。(2025年 岡山県公立入試 類似)
1. 自分の娘を天皇と結婚させ、その間に生まれた子を次の天皇に即位させることで、天皇の祖父として実権を握った。
  2. 地方の武士団を武力で圧倒し、その軍力を背景に天皇から政治全般の委任を受けた。
  3. 仏教の教えを政治に取り入れるため、自らが出家して上皇となり、天皇に代わって政治を行う仕組みを整えた。
  4. 海外との貿易を独占して莫大な富を蓄え、その経済力によって貴族たちの支持を集めて権力を維持した。
- 問7 最澄が比叡山に延暦寺を建立した際、この寺院が担ったとされる平安京との地理的な関係や役割として、最も適切な説明を選びなさい。(2018年 福島県公立入試 類似)
1. 平安京から見て不吉な方角とされる北東(鬼門)に位置し、都を災いから守る役割を担った。
  2. 奈良の旧仏教勢力との連携を深めるため、平城京と平安京の中間地点に建設された。
  3. 遣唐使が東シナ海へ出発する際の航海安全を祈願するため、難波津に近い山に建設された。
  4. 天皇の住まいである御所のすぐ隣に配置され、政治の意思決定を直接補佐する役割を担った。
- 問8 古今和歌集の編纂の中心人物であり、かな文字を用いた日記文学の先駆けである『土佐日記』の著者としても知られる人物は誰ですか。(2022年 三重県公立入試 類似)
1. 紀貫之
  2. 山上憶良
  3. 藤原定家
  4. 紫式部
- 問9 平安時代末期の東北地方において、奥州藤原氏が平泉に中尊寺金色堂などの壮大な寺院を建立した背景として、最も適切なものはどれですか。(2016年 神奈川県公立入試 類似)
1. 長引く戦乱で亡くなった人々を敵味方の区別なく供養し、仏教による平和な理想郷を築こうとしたため。
  2. 鎌倉幕府の軍事的な圧力を退けるため、強固な城郭を兼ねた宗教施設を整備する必要があったため。
  3. 朝廷から派遣された国司に対抗するため、独自の律令制度を確立しようという政治的意図があったため。
  4. 大陸との貿易によって得られた膨大な富を誇示し、宋の建築様式をそのまま日本に再現しようとしたため。
- 問10 平安時代初期、現在の東北地方に居住し、朝廷の支配が十分に及んでいなかった人々を指す名称として正しいものはどれですか。(2020年 島根県公立入試 類似)
1. 蝦夷
  2. 渡来人
  3. 南蛮人
  4. 隼人
- 問11 8世紀から9世紀にかけて、朝廷が東北地方への支配を拡大していく過程で、蝦夷の抵抗を抑え込むために坂上田村麻呂が任命された役職は何ですか。(2020年 島根県公立入試 類似)
1. 征夷大將軍
  2. 太政大臣
  3. 摂政
  4. 防人
- 問12 平安時代後期には、仏教の教えが衰える「末法」の世が来るとする不安から、阿弥陀如来を信仰して死後に極楽浄土へ生まれ変わることを願う考え方が広まりました。藤原頼通が建立した平等院鳳凰堂の背景にもある、この信仰を何と称するか。(2018年 鳥取県公立入試 類似)
1. 禅宗
  2. 浄土信仰
  3. 法華信仰
  4. 密教
- 問13 894年、唐の衰退と往復の航路の危険性を理由に遣唐使の派遣中止を建議し、その後の日本独自の文化である国風文化が発展するきっかけを作った人物は誰か。(2026年 茨城県公立入試 類似)
1. 菅原道真
  2. 藤原道長
  3. 平清盛
  4. 源頼朝
- 問14 平安時代末期の東北地方における政治情勢と奥州藤原氏の関わりについて述べた文として、正しいものはどれか。(2026年 和歌山県公立入試 類似)
1. 藤原清衡が平泉を拠点に陸奥国の支配を確立し、金や馬などの特産品を通じて独自の勢力を築いた。
  2. 北条氏が執権として実権を握り、平泉に東北地方を統括するための政庁を設置して支配を広げた。
  3. 足利氏が源氏の血筋を主張して東北地方の武士をまとめ、平泉を拠点に幕府を開いた。
  4. 平氏が日宋貿易の拠点を東北に移し、平泉を国際的な貿易港として整備することで富を蓄えた。

## 答え合わせ・解説

問1	答え 1 聖徳太子と菅原道真	607年に小野妹子を遣隋使として派遣したのは、推古天皇の摂政を務めた聖徳太子です。一方、894年に遣唐使の停止を建議したのは、優れた学者でもあった菅原道真です。中臣鎌足は大化の改新で活躍した人物、藤原道長は平安時代に摂関政治の全盛期を築いた人物であり、この外交上の出来事とは直接関係しません。
問2	答え 1 奥州藤原氏	前九年の役・後三年の役という戦乱を経て、藤原清衡が平泉に拠点の築いたことが始まりです。清衡、基衡、秀衡の三代にわたり、京都の文化を取り入れつつも、独自の北方貿易や産金背景を持つ強力な勢力として約100年間の繁栄を誇りました。
問3	答え 1 延久の荘園整理令	天皇が主体となって荘園の拡大を抑え、国家財政を立て直すために行われました。証拠となる書類を厳しく審査することで、不正な荘園を廃止し、中央政府による土地支配の強化と基準の統一を図ったのが特徴です。
問4	答え 1 院政	11世紀後半に白河上皇が始めた政治形態です。藤原氏が天皇の外戚（母方の親戚）として権力を持っていた摂関政治を抑え、皇室が政治の主導権を取り戻すために行われました。天皇が位を譲り、上皇となった後も「院庁」という独自の役所を置いて実権を振るいました。
問5	答え 1 藤原氏による摂関政治の影響を排除し、皇室が自ら政治の主導権を握るため	摂関政治は、藤原氏が娘を天皇の后にし、生まれた子（外孫）を天皇に立てることで摂政や関白として権力を振るう体制でした。後三条天皇は藤原氏を母に持たなかったため、摂関家の干渉を抑えることができました。その方針を引き継いだ白河天皇は、自らが退位して上皇となることで、摂政や関白の役職に縛られない立場から政治を主導する「院政」を確立しました。
問6	答え 1 自分の娘を天皇と結婚させ、その間に生まれた子を次の天皇に即位させることで、天皇の祖父として実権を握った。	藤原氏は、自分の娘を天皇の后（きさき）として送り込み、その間に生まれた皇子を次の天皇に立てる「外戚（がいせき）」関係を築くことで権力を安定させました。天皇の母方の祖父という立場を利用し、天皇が幼いときには「摂政」、成人してからは「関白」として政治の主導権を握る「摂関政治」を確立しました。
問7	答え 1 平安京から見て不吉な方角とされる北東（鬼門）に位置し、都を災いから守る役割を担った。	比叡山は平安京の北東に位置しており、当時の陰陽道の考え方で災いが入り込むとされる「鬼門」にあたります。そのため、延暦寺は国家を鎮め、都を災厄から守る「鎮護国家」の道場として、朝廷から厚い保護を受けました。
問8	答え 1 紀貫之	紀貫之は古今和歌集の選者の一人であり、その序文（仮名序）を執筆したことで有名です。また、当時男性は公的な文書を漢文で書くのが一般的でしたが、彼はあえて女性を装ってかな文字で『土佐日記』を執筆し、国風文化における文学の発展に大きく貢献しました。山上憶良は奈良時代の歌人、藤原定家は鎌倉時代初期の『新古今和歌集』の編纂者です。
問9	答え 1 長引く戦乱で亡くなった人々を敵味方の区別なく供養し、仏教による平和な理想郷を築こうとしたため。	奥州藤原氏の初代清衡は、前九年の役や後三年の役という激しい戦乱を経験しました。清衡は、その戦いで犠牲になったすべての生命を供養し、阿弥陀如来の力によって東北地方を仏の住む浄土（平和な世界）にしようとする願い、中尊寺の建立を進めました。この浄土信仰が平泉の文化の根幹となっています。
問10	答え 1 蝦夷	律令国家の形成を進める朝廷は、現在の東北地方に住み、独自の生活様式を保っていた人々を「蝦夷（えみし）」と呼びました。朝廷は彼らを支配下に置くため、軍事的な征服や、城柵と呼ばれる拠点の構築を長年にわたって進めました。
問1	答え 1 征夷大將軍	桓武天皇の時代、朝廷は東北地方の支配を確実なものにするため、大規模な軍隊を派遣しました。坂上田村麻呂はこの軍の指揮官である征夷大將軍に任命され、蝦夷の指導者であったアテルイを降伏させるなど、朝廷による東北支配を大きく前進させました。
問1	答え 2 浄土信仰	社会不安や戦乱への恐れから、南無阿弥陀仏と唱えることで救われるという考えが貴族から民衆へと広まりました。平等院鳳凰堂の内部には美しい阿弥陀如来像が安置され、壁画には極楽から迎えが来る様子が描かれるなど、この信仰が文化に大きな影響を与えたことがわかります。
問1	答え 1 菅原道真	唐の国力が衰えていたことや、海上の航路が非常に危険であったことから、菅原道真は派遣の延期（事実上の中止）を提案しました。これにより、それまで大陸から取り入れてきた文化を日本の風土や感性に合わせる動きが強まり、ひらがなや寝殿造などに代表される国風文化が開花することとなりました。
問1	答え 1 藤原清衡が平泉を拠点に陸奥国の支配を確立し、金や馬などの特産品を通じて独自の勢力を築いた。	藤原清衡は、前九年の役・後三年の役という大きな戦乱を経て、陸奥国（現在の東北地方の大部分）における支配権を確立しました。平泉は北上川の舟運を利用できる交通の要所であり、この地を拠点に金や名馬を中央の朝廷や平氏に送ることで、政治的な地位と強大な経済力を維持しました。これにより、三代にわたって東北地方に独自の平和な時代をもたらしました。